保育方法

『見守る保育』

保育者は、子どもに対して介入のタイミングをよく考慮し、子どもの主体性を尊重しながら適切に援助します。子どもが自ら考え、問題を解決したり、子ども同士の関係を深めたりする機会を大切にします。

保育者がしなければならないのは、子どもが早く立てるように手を貸したり、後ろから支えたりする事ではなく、ハイハイをしなければならない時期に、十分にハイハイが出来るような環境を作ってあげる事。そして、赤ちゃんがハイハイしたくなるような、その子が出来る事より少しだけ背伸びが必要なものを用意する事が必要です。また、子どもが大人との関わりを求める何らかのサインを出した時には、必ず気付いて答えなければなりません。子どもが欲している事を「やってあげる」のではなく、かといってただ「見ている」だけでなく、一人ひとりの子どもの発達過程をしっかりと「見て」、しっかりと「守る」、そして発達に応じた適切な「援助をする」。それがMIMAMORU-「見守る保育」なのです。

（新宿せいが保育園園長、保育環境研究所ギビングツリー代表　藤森平司著「見守る保育」より抜粋）

幸和園が大切にしている５つのポイントを紹介します

Questions

つい手を貸して いませんか？

いい園とは 先生が何でもやって くれる園なの？

❶子ども主体の保育

私たちは子どもにどんな力が育つのか、大人になってどう発揮していけるのかを考えます。
近年の子育てや教育の傾向を見ると、大人が過干渉になる事が増えていると感じます。
それは保育においても例外ではなく、先生がやってあげる、先生が子ども達がする遊びを計画してあげる、先生が直接教えてあげる、という保育は、同時に子ども達が主体性を発揮する機会を奪ってしまう事や、子ども同士の学びの機会も奪ってしまいます。

認知能力
（早期教育）
※短期的に効果あり

⟷

非認知能力
※長期的に効果あり
学力テストなどで数値化されない子どもの将来や人生を豊かにするもの
自己肯定感・やる気・集中力・自制心・行動力・失敗してもくじけない力・共感力・想像力･･･

小学校からは学習（認知能力）が行われます。集中力、くじけない力などの
非認知能力が育っている事で、より安定した学校生活、社会生活に繋がります。この非認知能力を
乳幼児期に育てておく事が大事です。意欲が出たときに環境を用意するのが保育者の役目であり、
子どもの主体的な遊びにより、自分で考えて行動し、失敗から学び忍耐力や問題解決力及び、
コミュニケーション能力を身に付ける事が出来ると考えます。

❷たてわりではない異年齢保育

昔のように地域に子どもが大勢いた時代は、人との関係を築く方法を自然と学ぶ事が出来ました。
しかし少子化となった時代はそうはいかず、子ども達が集団に触れる機会も減っています。
特に異なる年齢の子ども集団の中で学ぶという機会は乳幼児期において非常に重要であるため、
異年齢保育を行っています。

❸ねらいに応じた保育

子どもが主体性に自分が持つ発達課題に取り組むために「子どもが自分で選択できる環境」を用意し、
見守る事を大切にしています。年齢にあった自由な活動に取り組み、大きな子だけでなく、0歳や1歳
でも自分で活動を選択します。どの教具・玩具で活動を行うのかの選択権は子ども達にあります。
しかし集団生活なので、他の子に譲る事も時には必要になってきます。活動をしたい自分の気持ちと、
周りの状況に思いを配れる意思が必要になってきます。ここに乳幼児が集団で生活する意義があると
考えています。また、選択制保育は自分の考えをしっかりと持ち、それを他人にきちんと伝えるという
側面もあります。

選択制保育　　子どもが興味や関心で遊びを選択する

- 製作をする際、手順や難易度の違ういくつかのやり方を提示し、やり方を選んで行う
- 公園に散歩に行く際、『○○公園は近くだから長い時間遊べるよ』『△△公園は遠いから短い時間だけど、たくさん虫がいるよ』など掲示した上で、どちらかを選ぶ
- 劇遊びや運動編・ダンスは子どもが自分でやりたい事を選択する

順序制保育　　どちらの遊びも経験させたい時に順番を選択する

- １日目：リトミック・集団ゲーム・運動遊びの中から今日やる方を自分で選ぶ。２日目・３日目：昨日していない事を選んでね
  ※結果的に、どちらも経験している上、自分で選択しているので積極的に参加できる

習熟度別保育　　子どもの発達に合わせた保育

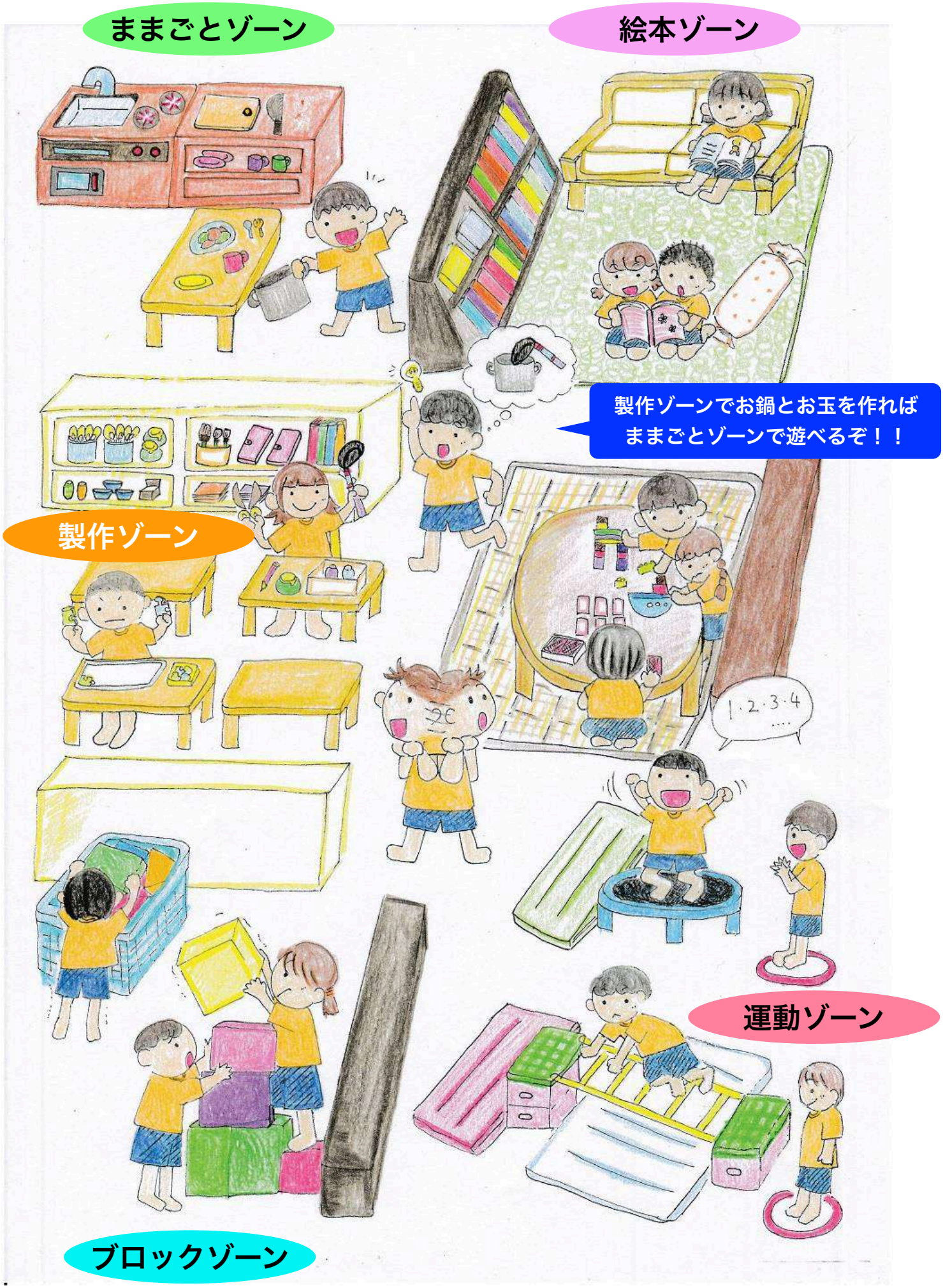
- 水遊びの際、バシャバシャ水をかけて遊びたいチームor顔に水がかかるのが苦手だから少しだけかけて遊びチームのどちらかを選ぶ

❹チーム保育

0·1歳児　２歳児　3歳児　4·5歳児とそれぞれ担任（職員）はチームを組んで保育をします。各クラスでは活動を進めるリーダー、その補助、次の活動の準備や片付け、フリーなど、役割を分担し定期的に交代しています。この事により、例えば食事の場面において食べるのが早い子、遅い子それぞれのペースに合わせた対応が出来ます。また、リーダーを様々な保育者が行う事で、各自得意な分野や個性を活かした保育を行う事が可能となります。子ども達にとっては決まった保育者からの保育ではなく、複数の保育者からの様々な体験が可能となったり、一人の子どもに対し複数の目線で子ども達を見守ったりする事が出来ます。

❺ゾーン保育

室内コーナーごとに玩具等を置いています。クラスでのお集まりや活動以外の時間には、子ども達は好きなコーナーで自由に活動します。その際、コーナーを越えて遊びが展開していく事があります。例えば、製作コーナーで作った食べ物でごっこ遊びが始まったり、折り紙で紙飛行機を作った子が今度は、飛ばして遊び始めるなどです。その時に、危ないから飛ばしてはいけないではなく、子ども達のその時の興味や関心に応じたゾーンを設ける事で、自らの遊び（学び）を選択し、満足するまで集中して遊びを深め、活動の幅を広げていくのです。


ままごとゾーン
絵本ゾーン
製作ゾーンでお鍋とお玉を作れば
ままごとゾーンで遊べるぞ！！
製作ゾーン
1・2・3・4
運動ゾーン
ブロックゾーン